

ヨシナカ新聞

全身の若さを保つ身
近な食べ物!」

魚に多く含まれる脂肪酸は、脳の神経細胞を守る働きがあります。これに加え、最新の研究によつて、全身の細胞の老化を防ぐ作用があることが分かっていたそうです。

全身の細胞は、細胞分裂することによって、新しい細胞に入れ替わっています。ところが、細胞の一つ一つにはテロメアと呼ばれる回数券のようなものがあり、細胞分裂のたびにこの回数券が減っていく仕組みになっています。魚に含まれている脂肪酸をたくさんとっていると、この回数券が減りにくくなること

が分かったそうです。また、お肉の油に含まれる飽和脂肪酸は、脂肪になりやすく、太りやすいという性質を持っています。魚の油に含まれる不飽和脂肪酸は、逆に脂肪になりにくく、痩せやすい油(ドコサヘキサエン酸)になるのだそうです。

花嫁人形

皆さんご存知だろうかと思いますが、下記の詩は童謡の『花嫁人形』です。

大正十二年(1923年暮れ)、西条八十の詩が締め切りに間に合わず、たまたま編集部を訪れた画家の落谷虹児(ふきやこうじ。明治31年~昭和54年)が『花嫁人形』の詩と挿絵を書いた

のですが、それにしても、この詩には『泣く』が多く出て来ます。何故でしょうか。

落谷虹児の母エツは新発田にある銭湯の看板娘で、まるで京人形のように美しかったそうです。しかし父と母の結びつきは親が許さぬ恋路であった為、親の反対を押し切って駆け落ちし、貧困のどん底にあった雪の降りしきる夜、落谷虹児を生みました。母は十六歳になったばかりでした。

夫は酒癖が悪く苦労の連続。貧乏の中病に冒され二十八歳の若さで他界。落谷12歳の時、まだまだ母が恋しい年齢でした。

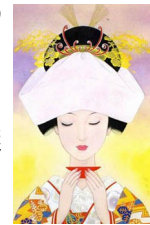
苦しさのあまり、涙を着物の袖でふく母の面影が、はっきりと浮かんで来たのでしょうか。やさしかった母は、落谷の心の

中で永遠の命になって住みついた事でしょう。金襴緞子の帯を締めることもなく、文金高島田に髪を結うこともなく、母は父の元に嫁いだ。不幸だった母を思い出すと、きれいな顔が急に花嫁さんになった。なのに母は泣いている。「ごめんね、ごめんね」。それは、まだ小さな子供達をこの世に置き去りにしたまま、先立ってしまったことへの謝罪の涙だったのでしょ

う。泣くに泣かれぬ 花嫁人形

落谷虹児はそっと代わりに泣いたのでしょ

(『案外知らずに歌ってた童謡の謎2(合田道人筆)』より)



- 一 きんらんどんすの 帯しめながら
花嫁御寮は なぜ泣くのたろ
- 二 文金島田に 髪結いながら
花嫁御寮は なぜ泣くのたろ
- 三 あねさんごっここの 花嫁人形は
赤い鹿(か)の子の 振袖着てる
- 四 泣けば鹿の子の たもとがきれる
涙で鹿の子の 赤い顔にじむ
- 五 泣くに泣かれぬ 花嫁人形は
赤い鹿の子の 千代紙衣装

2月号
発行所

株式会社ヨシナカ
東京営業所
TEL: 03-3555-0796
FAX: 03-3553-8444

ステンレス豆知識

比重

左表は各元素の体積1cm3の重量です(ステンレスは合金です)。1cm3の水の重さが1gである事から、それに対する比重でもあります。ステンレスSUS304は7.93である事から1リットルの水(1kg)と同じ体積分だと7.93kgという事になります。

| 記号 | 英語 | 日本語 | g/cm3 |
|-----|------------|----------|-------|
| Ag | Silver | 銀 | 10.49 |
| Al | Aluminium | アルミニウム | 2.7 |
| Au | Gold | 金 | 19.32 |
| Bi | Bismuth | ビスマス(蒼鉛) | 9.8 |
| Cr | Chromium | クロム | 7.19 |
| Cu | Copper | 銅 | 8.93 |
| Fe | Iron | 鉄 | 7.87 |
| Mg | Magnesium | マグネシウム | 1.74 |
| >Mo | Molybdenum | モリブデン | 10.22 |

| 記号 | 英語 | 日本語 | g/cm3 |
|----|-----------------|----------|-------|
| Ni | Nickel | ニッケル | 8.9 |
| Pb | Lead | 鉛 | 11.36 |
| Pt | Platinum | 白金 | 21.45 |
| Sn | Tin | すず | 7.3 |
| Ti | Titanium | チタン | 4.51 |
| W | Tungsten | タングステン | 19.3 |
| Zn | Zinc | 亜鉛 | 7.13 |
| 参考 | Stainless Steel | ステンレス304 | 7.93 |
| 参考 | Stainless Steel | ステンレス430 | 7.7 |

K社員のピアノ奮戦記

第四十九話 脱力体感?

『おばけの手』は確かに手首の力が抜けています。でもこんな状態で演奏出来るのかという不安もあり、頭の中はもやもや状態でした。そんな時、何げにインターネットのyoutubeで私が好きな『愛の夢第三番(リスト(1811年~1866年 ハンガリー生まれのピアニスト))』を検索したら、エフゲニー・ケーシンの演奏を見ることが出来ました。

彼の演奏はとても素晴らしいのですが、それと同時に彼の手に目が釘付けになってしまいました。演奏が始まり、佳境に進んで行くにつれて彼の上半身は前傾姿勢から時には後ろに沿った状態で弾いています。そして手の甲は殆ど動いておらず、指だけ

が速射砲のように上下運度しています。まるで全ての指に糸が付いている操り人形のように。。。彼の指の長さもあって、上下運動の距離が他のピアニストより遙かに大きいと私は感じました。

このエフゲニー・ケーシンの演奏を見て、脱力とはこういう事なのかと自分なりにわかったような気がしました。手首はおばけの手のように力が入っておらず、手の甲は殆ど動かず、指だけが動いている状態。

いてもたってもいられず、すぐ電子ピアノの前に座り、先程の映像を頭に思い浮かべながら弾いてみます。勿論うまく弾けないのですが、少し体重を鍵盤に預けるようにして自分なりに工夫して弾いてみると、手首に力が入らない状態で弾いているみたい

です。なるほど。

ちょっとした疑問

(^^)/

先日、とある場所でポーリスカウトの集まりに出会いました。そこで小さい頃を思い出した。『ポーリスカウト』ってどういう意味? スカウト活動はしていない筈なのに何故スカウトなのか?

で、インターネット調べてみたところ、『スカウト』とは、「先駆者」の事で、自ら率先して幸福な人生を切り開き、社会の先頭に立つとする少年という意味で、8人くらいの仲間